

## 第1回城下のまち鶴岡将来構想策定委員会（会議録）

- 日 時 令和2年7月1日（水）13時30分～15時20分
- 会 場 鶴岡市役所別棟2号館21、22、23会議室
- 出席委員 上木 勝司委員長、矢口 哲也委員、加藤 捷男委員、上野 隆一委員、  
佐藤 泰光委員、前田 直之委員、丸山 貴光委員、酒井 忠順委員、  
宮澤 巖委員、高坂 信司委員代理、三浦 秀人委員、  
伊藤 秀樹委員、佐々木 邦夫委員、阿部 貴一委員
- 欠席委員 國井 英夫委員、山口 朗委員
- アドバイザー 東北芸術工科大学 学長 中山 ダイスケ氏
- 鶴岡市 皆川 治 市長
- 事務局 建設部長、企画部次長（兼）政策企画課長（兼）酒井家庄内入部400年記念事業推進室長、商工観光部観光物産課長、教育委員会社会教育課文化財主幹、建設部都市計画課長、建設部都市計画課城下のまちづくり推進主幹、企画部政策企画課主査、企画部地域振興課地域振興専門員、商工観光部商工課主事、商工観光部観光物産課観光物産専門員、教育委員会社会教育課文化財主査、建設部都市計画課都市計画主査、建設部都市計画課専門員（都市計画係）3名
- コンサル (株)国際開発コンサルタンツ 2名
- 公開非公開 公開
- 傍聴者 3名
- 次 第
  1. 開会
  2. 委嘱状交付
  3. 挨拶
  4. 委員長選出
  5. 協議
    - (1) 構想策定について
    - (2) 意見交換
  6. その他
  7. 閉会

## 会議概要

### 1. 開 会

- ・都市計画課長による開会宣言

### 2. 委嘱状交付

- ・机上にて委嘱状交付

### 3. 挨拶

#### 《市長》

- ・本委員会は本年3月に立ち上げた酒井家入部400年記念事業実行委員会のまちづくり部会も兼ねている。委員の皆様には本策定委員会の委員をご承認いただき誠に感謝申し上げます。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、開催期日が延期され本日に至った。オンライン参加していただいている。新しい生活様式に取り組みながら、開催して参りたい。
- ・本市においては、今後10年間の市政運営の指針となる第2次総合計画を策定しており、この計画を始め各種計画に基づき、持続可能でコンパクトなまちづくりを進めるために様々な都市整備事業を行っているところである。
- ・本市の都市構造は、鶴岡公園を中心とした江戸時代の町割りが基盤となっている。大正8年に羽越本線鶴岡駅が設置された後には、駅周辺に向かって街並みが形成されてきた歴史がある。さらに、昭和60年代には、鶴岡駅前の再開発が行われたが、そこからおよそ30年経過している。社会環境の変化とともに、役割を今一度検討すべき時期にきているものと考えている。
- ・そして、令和4年度には、酒井家入部400年という節目を迎える。時代の変化とともに、発展をしてきた鶴岡市だが、この節目において、改めて鶴岡らしい城下の在り方を議論し、将来のあるべき姿を描くことが必要だと考えている。
- ・この策定委員会では、東北芸術工科大学中山学長をアドバイザーとするプランニングチームの力添えをいただきながら、事務局の方から、段階的にテーマのご提案をさせていただく。
- ・色々な課題があるが、例えば旧ジャスコ跡地の活用など、具体的な課題についてもこの委員会を通じて結論を出していきたい。将来構想の策定に向けて、各界の代表である委員の皆様方から忌憚のないご意見、闊達なご議論をお願い申し上げます。

- ・出席者名簿による委員及びのアドバイザー紹介
- ・資料の確認

### 4. 委員長選出

- ・委員長に上木委員を選出

#### 《委員長》

- ・本委員会の目的だが、酒井家入部400年、この地での人々の営みが庄内という括りで地域的アイデンティティを育ててきて400年という節目に、歴史文化財資源の保存継承やまちづくりの在り方に関わり、今後のまちづくりの基本方針を協議することにあ

る。

- ・今、世界はコロナウイルス禍の最中にあり、都市や国家間の移動制限やロックダウンと、グローバル化の時代において、人々の生活基盤としての地域の在りようが改めて問われる事態になっている。
- ・温暖化と気象現象の激甚化、食料やエネルギー問題などのあまたの問題も関わり、例えば、地域農業に依拠した食の自立性の確保の仕組みの強化、災害時に避難施設としての高層建築の計画的配置などといった、地域における安定した人の営みを守り、持続させるための自立的社会基盤の強化といった視点からのまちづくりが、課題になっている。
- ・本委員会の協議は、駅前地区整備構想のとりまとめに収斂するが、この機会に先にまとめられている総合計画や都市再興基本計画などを土台にして、せめて30年先を見越し、市の将来構想に活かすべき基本視点について、改めて検討してみることも大切である。

## 5. 報告・協議

議長：委員長

### (1) 構想策定について

… 策定の背景と目的についての説明 …

… 事務局による資料（P 1～P 15）、参考資料（P 1～P 11）の説明 …

<アドバイザー>

- ・学長としてご紹介いただいたが、本業はアートディレクターである。
- ・藤沢周平が好きで、東京にいても小説の舞台を回るのが趣味である。
- ・鶴岡は松ヶ岡開墾場の再建に関わったり、スパイバーの関山さんやヤマガタデザインさん、山形大学農学部との付き合いでお仕事をいただいたり、アイデアを一緒に考えていただいたりする中で、鶴岡が大好きになった。
- ・鶴岡は山形市とは別に、きちんとしたコミュニティが形成されている地域だと思う。
- ・私の役割は、まちのステークホルダー（これまで商売されてきた方、まちの商業施設を運営されてきた方、駅を運営されてきた方）の皆さんが思いつかないような、新しい駅前の在り方をアイデアとして作ってみることである。
- ・山形県、山形市等と絡んで色んなまちづくりをしているが、結局色んな業態の方の利権等が色々混ざり込んできて、昔と似たような商業施設を作ってしまうことががちである。ご存知の通り山形の大沼デパートが閉店したが、似たようなデパートがやってくるかもしれない。
- ・日本中で色んな事例を知っている人たちに絡んで意見をもらいながら、鶴岡市らしい、鶴岡駅前だからできるもの、駅前とはどういうものか。今じゃなくて、未来の人が使える何か、柔らかいアイデアを出せればと思っている。
- ・どこまでお役に立てるか分からないが、山形県や山形市がやっているような東京から大きな代理店を連れてきて、何かアイデアを置いて逃げてしまうようなみたいなことは絶対にしない。皆さんが面白がってくれるアイデアを作るために頑張りたい。早稲田の矢口先生も付いてくれているので、是非協力させていただきながら、大好きな鶴岡市のお役に立てればと思う。

## (2) 意見交換

### 《委員》

- ・駅前地区の特性として、観光機能の集積と駅北側の工業集積・研究拠点の集積が挙げられる。
- ・街の玄関口である駅前、現状では JR 羽越線の乗降客数が年々減少しており、庄内空港とのアクセスも非常に悪い。観光バスの発着も皆無に近い。観光機能の集積を生かしている状況にはない。鶴岡地区を観光の拠点とするのであれば、庄内空港とのアクセス、観光バスの受け入れ環境の整備を検討していただきたい。
- ・鶴岡には、広告宣伝業、経営コンサルタント、法律・会計等の企業活動を支える都市型サービス業の集積が乏しい。これらの機能が分散しているので、マリカ西館にサービス業の事務所機能を集積してほしい。

### 《委員》

- ・都市は年々変化していくものである。30年、50年も経てば、駅前もだんだん寂れて、バイパスのある周辺部に機能が移っていく。
- ・中心市街地の復活は、時代の流れに逆行するのではないか。今までとは違った観点から、発展の方向を考えるべきである。駅前開発については、人口が減少して人の出入りが少なくなるので、緑地公園にするべきだ。ジャスコ跡地は、液状化するので、駐車場が良い。今ある立体駐車場も老朽化してきたので、解体した方がいい。
- ・老朽化している図書館を駅前に持って来てはどうか。中高生が勉強し、集う場として活用してもらおう。その際、市がテナントに対して助成して、安価なコーヒー・軽食が楽しめる場を市民に提供する。
- ・鶴岡はあちこちに病院が多い。医療施設を駅前に集約してはどうか。

### 《委員》

- ・全農山形県本部では駅前の倉庫を所有している。農業は地域基幹産業と位置づけられている。これからも農業が地域の隆盛と強く関わっていくものであらうと考えられる。特に米については、流通において保管倉庫の役割がとても重要な役割となっている。これからのまちづくりに歴史ある資産として関連付けて、農業がまちと一緒に発展していければと思う。

### 《委員》

- ・「まちに行く」という場合、「まち」とはどこをイメージするか。私は、デパート等の商業施設のある場所をイメージする。おそらく鶴岡の場合も、ダイエーやジャスコに行くことを、楽しみにしていたことがあっただろう。それが無くなった今、駅前の役割は、新しい時代に合わせて作っていかねばならない。
- ・資料の3頁について、自治体が構想図を描くとき、自分のまちのエリアの絵しか書かない。今回の計画が酒井家入部400年を記念したものであれば、庄内全体をイメージして、そのグランドデザインの中で「特に鶴岡はこうしたい」というのがあるといい。鶴岡だけで出来ない部分を隣接する都市と組んで行うような、大きな絵がベースにあってもいいのではないか。
- ・そのきっかけとして、今度出来る中高一貫校がある。庄内の優秀な生徒たちは、これからの宝だと思う。鶴岡駅を鶴岡の玄関口としてではなく、庄内の玄関口として、位置付けてはどうか。

- ・S モールと駅間の微妙な距離がネックになっていると思うので、そこを庄内一連の交通の中での玄関口として位置付ける。

#### 《委員》

- ・JR 鶴岡駅は、大正時代に開業し、100 年を迎えている。2014 年の 2 月、駅舎のリニューアルをしている。当時のコンセプトは、「明治の薫りが漂う様な洋風づくりの駅舎」である。
- ・今回は、待合室を含め大幅なリニューアルをした。学生が使いやすい待合室になっている。
- ・人口減少で乗降客数が減っているのは事実だが、週末を中心に、特急いなほ等の楽しい列車が運行している。観光の玄関口というイメージも是非、まちづくりに加えていただければと思う。

#### 《委員》

- ・酒井家のアイデンティティ、存在意義は何なのか。自問自答している。
- ・鶴岡らしさ、城下町らしさが、これからは必要ではないか。
- ・コロナの蔓延の中で、横文字が増えてきている。今回の資料でも横文字の施設が多い。時代と逆行するのかもしれないが、鶴岡らしさのある、あえて和を感じられる名称の施設があってもいいのではないか。観光客が見たいのは、地域特有のものだと思う。
- ・郷土ゆかりの人物資料館・大宝館では、鶴岡出身の偉業を成し遂げた方々を知ることができる。たくさん偉人を輩出している鶴岡の出身であること、ゆかりがあることを誇りに思えるようになってほしい。
- ・市立図書館、郷土資料館、致道博物館、庄内藩校致道館、大宝館を核とした教育・観光施設、ソフトの拡充が急務と考える。

#### 《委員》

- ・400 年間のうち 300 年間は、城下町としてお城の周辺が中心だった。100 年前に鉄道駅が開業し、駅前拠点が出来た。この 2 拠点による、まちづくりの提案というのが多い。しかし、人口減少の中、2つの拠点を同じ様な力の入れようを進めていくと、共倒れになってしまうと懸念している。駅前と旧中心商店街は、それぞれの役割を相互補完していかないといけない。
- ・上野会長も言っていたが、昔ながらの商業に立ち戻るのは、現実離れしている。新しい拠点の在り方を考えていかないといけない。
- ・昨今のコロナで観光だけに頼ることが非常に危ういと分かってきたので、市民の皆さんの憩いの場としても考えていかなければならないと思う。

#### 《委員》

- ・鶴岡駅前地区のマリカ関係の各施設、ジャスコ跡地の管理をしている。再開発事業が行われてから 33 年、老朽化による改修が差し迫っていることが課題である。
- ・駅前地区の現状認識についてお話したい。1つは、色々な交通手段でのアクセスが可能な交通アクセスの結節点である。それから、徒歩圏に、スーパー、ドラッグストア、コンビニなどが立地し、ここで住んでいる人、訪れる人、働く人に対するある程度のサービスが受けられる機能がある。
- ・沢山あるホテルには、観光目的だけでなく、中央工業団地の立地企業等の関係で、短

中期で滞在する方もいる。駅前再開発ビルの駐車場もビジネス関係の月極の駐車台数が増えている。観光という観点だけでなく、ビジネスをサポートする機能も担っている。

- ・観光面でいうと、集客力をもつ観光拠点機能が手薄である。
- ・教育文化関係の機能は鶴岡公園周辺に集積させるという市としてまちづくりの考え方があり、駅前は、そういった機能が手薄である。

#### 《委員》

- ・時代の流れ、ニーズの変化への対応はその通りだが、どの位の時期に何年先までの開発をするのかをよく考えていかないといけない。どんどん変化していく時代に対応していくことがテーマではないかと思う。
- ・鶴岡駅前で商売しているので、現場の意見を出していきたい。

#### 《委員》

- ・マリカ西館の管理組合の副理事長を仰せつかっている。
- ・今回は駅前が中心だが、私としてはこの委員会が、鶴岡全体、強いて言えば庄内全体のまちづくりの発展を検討する火元になればいいと思う。
- ・この鶴岡市の景観を生かしたまちづくりの方針の中にも、色々ある中で、第一に「時代・時代の本物が残る城下町」というコンセプトがある。私は、庄内全域がそうになっていくには、酒田鶴岡両市が協力して、模索したらいいと思う。
- ・お城を再興するなど、トータル的に鶴岡のまちづくりをしてはどうか。先行例がある。倉敷の大原美術館周辺は街並みが素晴らしい。小布施もそうだ。百年、庄内・鶴岡がどうあるべきかという観点で駅前がどうあるべきか。
- ・倉庫も400年の酒井家の遺産を全農が引き継いで、今日まで修繕されてしっかり守っている。これを耐震工事して、文化遺産として我々民間がどう協力出来るかを考えるべきだ。上野さんから図書館の話があり、我々もそういう話題になるが、図書館・郷土資料館を駅前に引っ張り出してみるのはどうか。液状化していれば、地下をルーブルのように作ってみる、そういった発想もいいのではないかと思う。
- ・酒井家の文化遺産、歴史は素晴らしいものだ。東北で重文・国宝の数がナンバーワンになっている。それを全面に打ち出せばいい。致道博物館・郷土資料館を合体させてはどうか。文化遺産をもう一度見直してほしい。
- ・酒井さんが「城下町らしいものがない」と明言されるくらいだから、ここは県の力を借りて、新たな城下町風情を出す店や家に500万、1,000万補助を出してでも、そういう景観を作してほしい。

#### 《委員》

- ・駅前町内会コミュニティのまとめ役をしている。松原御殿を守る会として、第五学区では保存に力をいれている。
- ・40年前に私が鶴岡に来たときには、全く食堂もなくて、とんでもない町に仕事を求めたんだなと思ったが、駅前にジャスコが出来たり、ボーリング場やスケート場が出来たり、どんどん発展していった。それでも三川にイオンが移ったりして、廃れていった。第五学区は店じまいしているところも多い。
- ・鶴岡が発展したのは、工業団地が出来たことにより、色々な業者が色んなところから仕事をしに来た。それに伴い、ホテルや食堂が出来た。今後駅前をどう発展させてい

くのかを見越したプランニングを考えなければならないが、なかなか難しいと感じる。

#### 《委員》

- ・末広町駅前町内会の会長をしている。現役のサラリーマンだが、担い手がおらず、現役の私が町内会長をしている。駅前の同級生は、世の中の動きに伴い、引越をせざるを得なくなった。末広町は、小中学生もいない状況だ。
- ・世の中が変われば、お金の流れも変わる。資源回収をしているとアマゾンの段ボールが非常に多い。近隣で買い物をしないからだ。駅前に住んでいる高齢者は歩いて生活が出来るから過ごしやすいというが、携帯があれば何でも買えてしまう。鶴岡市が持続可能な社会をどうやってつくるのかを根本的に考えないといけない。
- ・昔は近所に鍛冶屋や下駄屋、天ぷら屋が何件もあったが、日々の生活を回すインフラが今はない。コンパクトな鶴岡市が、世の中と関係なく、コロナのような状況下でも回していけるような社会が必要なのではないか。
- ・外から見た人にとって、駅は目印であり、非常に重要な場所だ。鶴岡市は今ある田んぼを維持し、昔のものを残しつつ、自分達のところで生活できるようにしていくことが理想だと思う。
- ・小学校、中学校の子供がいると地域に根差した活動ができるが、高校性、大学生になると、世界に目を向けた活躍を希望する。サイエンスパークもそうだ。さっき、教育関係を公園に集約という話もあったが、どちらかという外に意識が出てくる。そうすると、人を作っていく中で、地域の子供たちに地域文化を自覚してもらえることが非常に重要なのではないかと思う。ものではなく、心、考え方を大切にしてほしい。
- ・ジャスコ跡地は災害時の備蓄倉庫にして、バスのターミナル、事務所にしてはどうかと思う。
- ・小真木原のプレミアムチケット販売では、交通渋滞が起これり交通が機能しなくなってしまった。よそから人を集めるのに相応しい施設がない。コンベンションが出来るような施設を作るのであれば、それ相当の広大な駐車場が必要だ。歩いて生活が出来る所と、住生活を回すためのネットワークが出来るような、持続可能な地域とならなければならない。
- ・観光だけでなく、気持ちを休めに来る場所になればいいと思う。

※15時からアドバイザー退席。

#### 《委員》

- ・昨年度からシビックコアエリアのまちづくりに関わらせていただいている。私が提供できるのは外からの視点である。皆さんが気付かないような隠れた資産、エネルギーを外からの視点で掘り起こしていければと思う。
- ・実は、鶴岡市は都市計画的には機能集約が進んでいる。
- ・ポストコロナの話をする訳にはいかない。移動手段・距離、移動のスピードがこれから変わってくる。そのときに駅前の役割が何であるかを考えたい。適切な密度や適切な土地利用を考え直す必要があるだろう。
- ・これからの駅前は、どういう形で公共性を提供していくか。移動、土地利用、新しい公共性というものを、これからの駅前で考えていきたい。
- ・大きなビジョンと小さなまちづくりの話をいったりきたりすることが大事なのではないかと思う。私が貢献できるのは、大きな話の中で小さな話を振ってみたり、小さな

話の中から大きな話を引き出すことだ。

- ・特にプランニングの仕事は、長期的な目線で考えろと言われるが、こんなに世の中の動きが早いときに30年先、50年先のビジョンを作ることは難しい。しかし、ビジョンがないところには、計画も建設もないので、何らかのゴールは掲げる必要がある。1年後、1ヶ月後も頭の片隅において、このビジョンを打ち出したときに一歩目をどうするかも考えていけたらと思う。

#### 《市長》

- ・多くのご提言、ご発言があった。私自身は、平成29年7月のFOODEVERがオープンした直後に市長に就任した。昨年、山形県沖地震に伴って、旧ジャスコ跡地の活用の再検討が必要となった。マリカ東・西館は、説明があった通り、老朽化が進んでいる。また、前田委員から話があったが、令和6年に中高一貫校が鶴岡に開校する。鶴岡だけの視点で考えるだけではなくて、庄内全体を俯瞰した、考え方が必要である。
- ・駅前には交通の結節点であるとともに、賑わいの結節点である。今後の結節点という意味を考えなければならない。さらに先となれば羽越新幹線の誘致活動を考えているわけだが、相当長いスパンになる。観光への期待、色々、ご意見に加えて、公園や医療、新しい発想も出ている。
- ・今後、中山先生を中心にプランニングチームからご提案がなされてくる。2月に策定委員会を予定している。将来に残るような議論、結論を出して、仔細の事業にも取り組んでいく必要があると思っているので、皆様の忌憚のないご意見を頂戴したことを御礼申し上げます。

#### 《委員長》

- ・委員の皆さまには、大変意欲的なご意見を頂戴したことを感謝申し上げます。庄内400年の歴史は、決して鶴岡の中心市街地だけの話ではない。庄内地域全体の歴史の中で鶴岡市を位置づけ、将来を見越した議論を進めることでこれからの発展の方向を見いだせれば良い。

#### 進行：事務局へ

##### 6. その他

… 意見・質問等なし …

##### 7. 閉会

- ・都市計画課長による閉会宣言